

それ以上でもそれ以下でもない…

二代目神野礼

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

このア・バオア・クームみたいな流星がゴルシと我々を狂わせる

目次

ドバイ帰りの爆弾

「その……人形？のような物は何なんですの？」

「おっ、コレに目を付けるとは中々だなマックイーン！」

「おだてても何も出ませんわよ、ゴールドシップ。」

「ちえっ、そんなに1日10食限定メニュー、『旬のフルーツ盛りだくさん・クリーム特盛！超ウルトラスーパーデラックスリッチパフェ』の最後の一つを取ったの根に持つてんのか？」

「その話を蒸し返さないでくださいまし!!それよりこの妙にやる気を減退させるアイテムについて説明しなさい!!」

「それはな、ジャスタウエイだ。」

「ジャ……ジャスタウエイ？何なんですの？それは。」

「そりやあお前、ジャスタウエイはジャスタウエイ以外の何ものでもないだろ？」

「……意味が分かりませんわ。」

「だーかーら、それ以上でもそれ以下でもないものだって言ってるだろ。」

「それが意味不明だと言っているのが分かりませんか!？」

「グウツ、いひやいいひやい！ほうひよくひゃんひゃーい！」

「……芦毛同士の絡み、いいな。」パシヤリ

「……ドバイから帰って早々、何をしてるお前。」

「ああ、ブライアンさんですか。見て分かるでしょう、あの微笑ましい光景を撮影してるんです。」パシヤリ

「……私が何故いるのか分かっているのか？」

「何故です？」パシヤリ

「……オグリキャップから『食事中に見てくるしおかわりをよそつてくれるんだが』、タマモクロスから『あのウマ娘なんとかしたってくれんか？いくらウチが貧乏やからって勝手に金払われるんは流石に屈辱や!!』、姉貴……ビワハヤヒデから『トレーニング中にジロジロ見ているのは……まさか私の頭が大きいと思って!』……ありとあらゆる芦毛

のウマ娘達から苦情が来てるんだが？って」

（『それ以上でもそれ以下でもない』と書かれた貼り紙を貼られた汎用勝負服を着た丸太）

「あっオイっ!!待てえ!!!流石に色々問い詰めたいんだぞ!!特にタマモクロスからののは!!」

「……なんか騒がしいですね。」

「いひえひえ、……どうせアイツが帰ってきたんだろ。」

「……アイツ?」

「……つたく、アイツはあたしだけ見てりやいいんだよ。」

「何か言いました?」

「何でもない!オイ待てよー!!」

「あっ!?ちよ、ちよっとお待ちなさーい!!ちゃんと色々説明をしてくださいましー!!あとパフエのことに關してはまだ許してませんわよー!!!」

「ダイエツトしろって言われてるだろー!!」

「やかましいですわー!!バクバクですわー!!!」